

本部かわら版

発行責任者
神奈川県隊友会
事務局 久保内修一



会務報告

県隊友会事務局

一 本年6月発行のかわら版(48号)以降、
県隊友会としては次のような事業を実施しま
した。

- ・ 本部定時総会等への参加(会長)
(6月22・23日、市ヶ谷)
- ・ 第一回安全防災部会(7月1日)
- ・ 音楽祭り調整会議(7月19日)
- ・ 九都県市総合防災訓練
川崎(9月3日)

二 第2四半期県理事役会(9月9日)
神奈川地方協力本部

今後の行事予定

- ・ 関東甲信越静ブロック研修会
横須賀地区(10月5・6日)
- ・ ビッグレスキユウ神奈川(10月15日)
- ・ 神奈川県殉職自衛官追悼式(11月16日)
陸上自衛隊武山駐屯地
- ・ 第3四半期県理事役会(12月9日)
神奈川地方協力本部
- ・ 海岸線を有する横須賀警備区自治体等との
防災連絡会議への参加(12月13日)
- ・ 第一空挺団訓練始め研修(1月7日)
- ・ 防衛諸団体合同賀詞交歓会(1月8日)
かながわ労働プラザ

- ・ 県隊友会防災図上訓練(2月3日)
- ・ 4/四半期県理事役会(2月23日)
- ・ 第2回安全防災部会(3月2日)
- ・ かながわ自衛隊音楽まつり(3月3日)
神奈川県民ホール

「自衛隊員のパワハラ事案に思う」

県隊友会会長 松岡貞義



最近、自衛隊内でパワー・ハラ
スメント(以下、「パワハラ」)や
セクシャル・ハラスメント(以
下、「セクハラ」)で世間の注目を
浴びる事案が生起している。この

ため、防衛大臣の指示により全隊員に対して特別
防衛監察が実施され、約一、三〇〇件のハラスメ
ントを受けたとの申し出があり、その内一、一
五件がパワハラであった。また、その六割以上が
隊内の相談窓口などに相談されていなかったと公
表された。今後、被害の申し出があった事案につ
いての内部調査を経て、被害が認められた事案に
ついては加害者に対する処分が決定されることに
なるだろう。セクハラについては、規律や団結維
持の観点から、一般社会よりも厳しい基準が必要
であり、厳しく処分されても仕方がないとも思う
私が憂慮している事案は、部下にパワハラを繰
り返したとして、将官を含む幹部自衛官が降格処
分などの極めて厳しい懲戒処分を受けたことであ
る。パワハラがどのように行われたのか、その事
案の詳細を知らない外野の私が軽々に論評を述べ
るべきでないことは十分承知している。もちろん
部下の人格を否定するような言動があったとすれ

ば、加害者は罰せられて然るべき
ではあるが、その代償が降格処分
であることに驚きと違和感を覚え
たのは私だけではないと思う。ま
た、加害者はそれ以前の配置にお
いても同様な言動を行っていた
と思われるのだが、なぜそのよう
な人物を敢えて指揮官に補職した
のかも疑問に感じる。

防衛省におけるパワハラは、
「階級、職権。期別、配置等によ
る権威若しくは権力又は職場にお
ける優位性を背景に、職務の適正な範囲を超えて、
隊員に精神的若しくは身体的な苦痛を与え、又は
職場環境を悪化させる行為」と定義されている。
(防衛省ホームページから)その職務には教育訓
練も含まれる。海上自衛隊の幹部候補生学校の学
生隊には幹事付という配置があり、候補生の四期
先輩の初級幹部自衛官が指定され、文字通り早朝
から深夜まで兄貴分として候補生の躰指導に当た
っている。その厳しい指導から彼らは「赤鬼」、
「青鬼」と俗称されており、時には精神的プレッ
シャーを伴う指導や連帯責任が課されることもあ
る。しかし、候補生学校を卒業して幹部自衛官に
任官した初級幹部から彼ら幹事付が内部告発され
たことは聞いたことがない。候補生自身が自分た
ちの至らなさを納得しながら厳しい指導を受け入
れ、逞しく成長してき



赤鬼 青鬼の館



証左であると思う。

「事に臨んでは危険を顧みず身をもって職務を完遂する」ことを宣誓した自衛官には一般の人とは異なる気力、体力、忍耐力等が求められるのは当然であり、自衛官は厳しい教育訓練を通じてこの素養を身につける。私もパイロット学生当時に教官から罵詈雑言を浴びせられ、時にはヘルメットの上から叩かれながらの指導に耐えた思い出がある（現在ではそうした指導は行われていない）が、それは飛行中のミスは即命を落とすことにつながることを知らしめる文字通りの苦痛を伴う躰でもあった。指導を受ける立場であった自分は、自身の努力不足が指摘されていることを十分自覚して



パイロット学生課程

いたため、素直に教官の厳しい指導に耐えて、訓練に励んだ。そうした厳しい指導のお陰もあり現役時代搭乗員としての配置を無事故で終えることができたことを感謝している。厳しい訓練には苦痛が伴うものであるが、苦痛に耐えて、乗り越えてこそ職務遂行に必要な技量が養われ、精強性が身につくのである。しかし、厳しい教育訓練や部下指導が学生や部下から見てもパワハラ被害と受け取られ、直ぐに通報され、調査の結果最悪にして指揮官や指導者が処分を受けるのが常態化すれば、部隊の指導的立場にいる者を萎縮させてしまうのではないかと懸念している。部下の不具合を見て見ぬふりをしてやり過ぎず、事なかれ主義に陥りはしないかと。

人は誰しも他人から好かれたいと思いきそすれ、あえて嫌われたと思う人はいない。しかし、精強な組織には、あえて嫌われ役を演じる人

材、頑固な指揮官や鬼軍曹が必要である。与えられた配置においてその職責を果たそうとすれば、部下に対して心を鬼にして厳しい要求や指導を行わざるを得ないのが指揮官の責務であると思う。自衛官は在職中様々な指揮官に仕えるが、人間万能の人はいない。上司も人間であるから多くの欠点を持っているのは当然である。要は、上司の良き点を学び、吸収し、悪しき点は将来自分が指揮官になった時には排除しようとする心構えで仕えるのが肝要であると思う。幸い私は幾度か部隊指揮官を務める機会に恵まれた。指揮官として「優しいけれど、冷たい指揮官」ではなく、「厳しいけれど、暖かい指揮官」であろうと心掛けてきたと思えば、言葉足らずや、熱意の空回りによって、部下に嫌な思いをさせたのではないかと反省している。私が退官後に四国霊場八十八箇所歩き遍路に挑んだのは、今更あの時はすまなかったと弁解しても仕方がなく、せめて自戒を込めて自己の半生を振り返りたいとの思いからであった。



真夏の花

県本部 監事役 寺田信夫



●週に2回程度、近くの各団地、公園等を散策します。色んな花を見る楽しみもあり、気持ちが高揚します。しかし、ここ2〜3年7月〜8

月の暑さは過去と比べて厳しく、日陰から日陰を探して歩く始末です。更に気持ちを萎えさせるのが夏花の少なさです。それでも少しですが酷暑にも負けず花を咲かせて和ませてくれる場所があります。

①野島の近くの湾の堤防との間に植えられた、

多くの赤いゼラニウムと立葵の花、街路樹のピンクの百日紅の花があります。

②鷹取山登り口の道路の木陰において、真夏でも咲き続ける紫陽花、頂上の広場の柵沿いに植えられた薄い桃色の芙蓉の花があります。

③追浜駅から桜並木を脱けて交番の所でUターンし追浜方向の坂道の斜面に下草を狩り、道路脇沿いに一直線に植えられた大きい向日葵があります。

④鷹取団地の空き地、或は街路樹の周りに咲くオレンジ色の芭蕉の花があります。

⑤大きい家の庭の等の蘇鉄に巻き付くように咲くオレンジ色のノーゼン葛もあります。

⑥最後に真夏に最強の夾竹桃があります。この花は近くの公園、マンシヨン群の境界に植えられています。暑さにも虫にも強く、どんな日照りでも咲いています。樹液に毒があるとのこと、最近好まれないようです。夾竹桃には強い思い出があります。昭和48年の7月陸自の久留米の幹候に入校中、候補生隊長の訓示を思い出します。久留米の夏は半端ない暑さでしたが、その暑い中での訓示で、幹部自衛官の立つ位置について言われたと思います。「冬は日陰に、夏は日向に夾竹桃の様に」と訓示されたのを覚えています。



向日葵



夾竹桃

●公園の花

ここ数年、家の近くの公園整備団体が維持する花畑があります。春先には水仙、牡丹をはじめ菖蒲等いろいろな草花が綺麗に咲いていますが、さすがにこの酷暑でほとんど咲く花もなく寂しいものです。昔は公園の定番で夏に強い「サルビア」が植えられていましたが最近はずっかり見なくなりました。

●個人住宅の花

春先には、家庭の庭にも球根草の水仙、フリージア、アネモネ、ランタンキュラス等が咲いています。また、1年草のパンジー類を多くの皆さんが植えています。夏は日々草やクレマチス等を少し鉢植えしている家を見る程度です。最近、家庭の庭が寂しいものになりつつあります。



①団地家族の老齢化等により昔からの庭を手入れする余裕がなくなりました。庭の手入れは手がかかります。雑草抜き、植木の剪定、鉢の植え替え等で老齢化が顕著です。
②古い宅地を2つに分割して売る建売が多くなり、庭の面積が狭くなります。また、共働きの多くなって、駐車場を優先して確保するようになり、このため、鉢やプランター等を置くのが限界と成りました。日本の力の減退を感じます。

●気象の変化

ここ数年、6月～10月まで大変暑くなり、内陸部では体温を超える所も多くなりました。TVの解説者によれば、エルニーニョ現象の影響と言っています。

夏と冬が厳しく期間が長くなり、春と秋が短くなり、合い物を着ると言う言葉が死語に成る程です。このため、庭の花を状態良く維持すること大変になりました。



おとじい

元県理事役 入江 哲二



今も昔も自衛隊員になりたい人が少ない、隊員獲得にあたっている地方協力本部も大変らしい。またまた古い話になってすみません。今もあるかもしれないが、「縁故募集」というワードがあった。何人か入隊させたならそれなりの褒章が授与された。昭和40年前後の話である。

父は早く亡くなったので長男はとりあえず現金稼ぎのため、中学を卒業と同時に土木作業を、次男は高校3年生、私は1年丁稚奉公した後「自衛隊生徒」に入っていた。

弟とは7歳違いで小学生だ。4年後三等海曹となった頃、次男は就職先を辞めぶらぶらしていた。私から自衛隊に入るように勧め航空自衛隊に入隊、任期満了とともに上司であった方と一緒に、航空電子会社に入社し定年まで勤めた。弟は高校卒業後大阪の会社に勤めて1年くらいして辞め、当時徳島県の小松島航空隊に勤務中の我が家に居候していた、徳島地方連絡所をお願いして入隊させた。いわば縁故募集の成果だと思うが、賞詞とかはもらえなかった。自衛隊に入るなら海上自衛隊の航空管制業務へとお願していた。呉教育隊終了後館山の21航空群司令部勤務となり、航

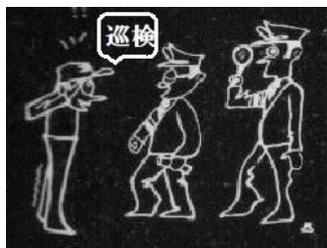
空管制員への待機となった。その後の弟との話である。

希望通り航空管制業務に進む、一連の教育を終え下関市小月航空基地隊の航空管制員として勤務した。私は幹部候補生を終え、息子の病気を理由に山口の親元に近い隊、弟と同じ小月航空基地隊に希望通り勤務させて頂き、息子を山口大学病院で治療していた。



小月航空基地

海上自衛隊には「当直勤務」があり、小さな隊なので当直士官1、海曹1、海士1で次の朝まで勤務する、その直割りで頻繁に弟と一緒に立ち一日中当直室に籠る。20時には巡検と言ってその日の最後の隊内巡視をする。巡検ラッパが鳴り終わる「先導します」と当直海曹、歳が離れているので抵抗は感じないがやはり変な気分、弟の勤務するタワーを廻ると巡検中にもかかわらず「今日も兄弟ですか」と声をかけられる事もあった。直割りは海曹については先任伍長が作成するので、再三お願いに行ったが変わらなかった。小月で3回の正月を迎える。年末年始の当直は気になるものである。この3回の正月の当直が大晦日2回、正月1回しかも全て兄弟とであった。親元は車で1時間くらいであるから仕方ないか。年が明け2月に息子を3歳前に亡くして小月から岩国転勤になった。以後同じ基地での勤務はなかったが、定年前硫黄島に勤務した。私の硫黄島赴任の1か月前まで弟は硫黄島タワー



にいた。赴任の挨拶で司令・副長に挨拶に行った時「弟がお世話になっていました」・歳が離れていたので気が付いておられなかったようだった。その後弟のエピソードを話して下さり、出だし上々・兄弟っていいものだな!!! 階級が逆でなくてよかった。

姉を亡くした他は今も元気に人間をやっている。皆世間に後ろ指さされることも無く真面目にやってきた。ただ弟の嫁が68歳で亡くなったことが残念である。あまり経験できない兄弟での勤務の話でした。



横浜市電元町トンネル

西湘支部 廣井 淳



JR根岸線を石川町で降りて海側へ歩いて行って神奈川県本や神奈川隊友会を訪ねる時、大きな道を渡ります。左へ行けば横浜スタジアム前から関内、桜木町。右へ行けば本牧方面です。この道に昭和45年(1970年)6月30日まで横浜市電が走っていました。横浜駅方面からここを通過して本牧三溪園、または磯子の先まで行く系統がひんぱんに走っていました。右へ行けば元町バス停がありますが、市電のある頃は元町電停があり本牧方面行きの電車は発車してすぐ新設軌道(道路上ではなく普通の鉄道のような線路)に入り、少しするとトンネルに入りました。

一般的に市街地を走る路面電車にトンネルは珍しいし、トンネルを抜けた麦田町は元町側とはかなり雰囲気の違いが面白かったです。

地元の古い人が集まると話題になるのが「昔、

三溪園の一番端の崖の下が海で、波が寄せていた」「貸し切りの市電で横浜の北部から三溪園に遠足に行った」等々。今も三溪園にはその地形が残っています。その先根岸、磯子はすっかり埋め立てられて工業地帯になっています。

元町電停を発車してすぐ新設軌道に入るので走行音が変わってきます。トンネルに入ると反響音があるのでまた違う音がしました。

横浜市電には冷房がなかったので夏は前面の窓を開けて走行します。トンネルへいると涼しくなりました。その先の本牧地区は30年程前から大ショッピングセンターになっていますが自家用車以外ではバス路線しかないの陸の孤島の感があります。写真をご覧いただくとおわかりでしょうがトンネルは今も本牧方面への一方通行の道として生きています。



本牧方面へのトンネル昔と今



西湘支部だより



機関紙「隊友」の届くまで

西湘支部長 柏崎 誠一

今回は、機関紙「隊友」が西湘支部の会員の皆様の許に届くまでの順序を紹介したいと思います。



機関紙「隊友」は、公益社団法人隊友会から神奈川県隊友会の事務局に届

けられ西湘支部以外の直轄支部においては、神奈川県隊友会の事務局でそれぞれの支部の事務担当者折り畳んで帯封をつけて配送するところもあります。西湘支部は遠隔の為、自衛隊神奈川協力本部に依頼して西湘支部に届けてもらうようになっていますが各自衛隊案内所の所長会議が毎月自衛隊神奈川協力本部で開催されており、その時に自衛隊小田原地域事務所が受領して現在、事務局を兼ねている支部長のところに届けられております。

自衛隊小田原地域事務所で受け取った機関紙「隊友」は事務所の業務の合間に届けられるため決まった日というのはありません。月によっては翌月や翌月ギリギリの場合もありますので皆様の御手元に届くのが今月号が翌月ということが度々あるのです。機関紙「隊友」が小田原地域事務所から支部長に届けられたら支部長が折り畳んで帯封を付けて佐川急便に持ち込んで皆様のところに配付されるのです。

以上の過程で機関紙「隊友」が西湘支部の会員の皆様の許に届けられていることを紹介しました。

編集後記

第7回のコロナワクチン接種券が届きました。今なお感染拡大中であり油断大敵です。用心しましょう。

皆様のご協力により無事かわら版49号を発刊することが出来ました。ご投稿いただいた皆様に感謝申し上げます。

県事務局 小島

